

## 連載：インターネット活用術(第3回)

## WWW 図書館の作成

近多 泰宏\*



## 1. インターネット

95年の流行語の一つに「インターネット」という言葉が選ばれた。インターネットそのものはもう20年以上の歴史があるのだが、確かに95年は急に新聞・テレビなどでこの言葉をみかれるようになった。

最近、周りに人に「インターネットって何」と尋ねられることも多くなったが実際うまく説明しづらいが、中国語で「互連絡網」と書くということを説明すると分かってもらえることが多い。物理的にいえば単にコンピュータ間を繋いでいるシステム、というところでしょうか。

では、何ができるのかというと、電子メールやネットニュース、リアルタイムで会話ができるチャット、そしてWorld Wide Web (以下WWW) といったものを総称して「インターネット」と呼んでいる。特に最近はこのWWWというのが大人気である。実際「インターネット」で一番騒がれているのはこのWWWの登場によるところが大きい。

WWWは1989年にCERN (European Laboratory for Particle Physics, Geneva, Switzerland) 研究所のTim Berners-Lee氏によって提案されたシステムで、あらかじめ各コンピュータに用意された様々な情報をブラウザというソフトウェアを使ってインターネットを通して簡単にアクセスできるものです。具体的には、日本で主なものとしては、朝日新聞、毎日新聞といったニュース記事から、企業の求人募集、映画や音楽に関する情報などあらゆるものが存在しています。

\* ちかた やすひろ 豊橋技術科学大学 知識情報工学専攻  
1年  
〒441 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
Tel. 0532-47-0111 (原稿受領 1995.12.27)

こういった情報は企業から発信することが多いがもっと手軽に個人でも簡単に情報を発信できるというのが最大の特徴ともいえます。このように双方向メディアとして期待されています。

## 2. WWWでの検索

日本で最初にWWWページが出来たとされているのが1993年の終わり頃でした。その頃はまだ一部の人でしか使われておらず、私自身がWWWを触り始めた1994年5月ごろでも日本には数百ページ程度しかありませんでした。しかし徐々に大学・研究機関を中心に情報が増えていき、民間のプロバイダの登場により、個人でもページが手軽に作るできるようになった1995年から急激にページが増え、今では10万ページを越えたとも言われています。

このようにページが急増してくると、どこに何があるのか分かりにくくなってきました。ページにはそれぞれインターネットの住所とも言うべきURLというアドレス (例：朝日新聞なら <http://www.asahi.com/>) を入力することで見ることができます。しかし大抵はリンクという機能で簡略化されており、具体的には「朝日新聞」と青色で書かれた場所をマウスでクリックすると、それだけで朝日新聞のページに飛んでいけるのです。

また自分のいつも行きたいページはブラウザに登録しておけばボタン一つで見ることができますが、自分で登録したものでさえ数が増え収集がつかなくなりました。

そこで1995年に入ってから、検索をしてくれるサービスが登場しました。大きく分けて2種類あり、一つは自動的にWWWの情報を集めてきてデータベース化したもの、もう一つは各ページのアドレスを集めて、これを自分のページに張り付けたものです。

前者の場合は、検索したいキーワードを入力すると、このキーワードに一致するものが表示されます。図書館で言うと、図書を検索端末と同じようなものです。

後者のものは大抵分類されているのが特徴です。例えば「学校」であれば、大学や高校、中学校といった具合に階層化されており、視覚的にもわかりやすいものです。ある大学のページを探したい、というような時はこちらで探した方が効率がいいです。

## 3. Yahooについて

このような流れがあったのですが、その前にアメリカのスタンフォード大学の学生がYahoo<sup>1)</sup> (ヤフーと

<sup>1)</sup> <http://www.yahoo.com/>

発音する) というものを1994年に作りました。これはあらゆるページが全て階層化されており、なおかつ登録されているものに対しても検索できるというシステムでした。WWWの図書館ともいべきこのシステムは世界中で使われ、95年にはその学生がYahoo!という会社を作り、現在でも急成長を遂げているベンチャー会社です。ただ、Yahooは英語であるため、日本人には今一つ使われなかったようです。

その当時は私も大学一覧のリストを作っていたのですが、徐々に高校一覧、小中学校一覧など幅を広げていきました。しかし件数が多くなるにつれて多くの方から「うちの学校も加えて欲しい」など意見が寄せられたのをきっかけに、誰でも自由に登録できるシステムに発展させました。これは学校名とURLアドレス、そしてコメントを記入すると自動的に追加されるシステムとなりました。そこでこのシステムはYahooと非常に考え方が似ているために、日本版YahooともいべきYahho(発音は「やっほ〜」と呼んで下さい)という愛称をつけました。WWW図書館の日本版です。

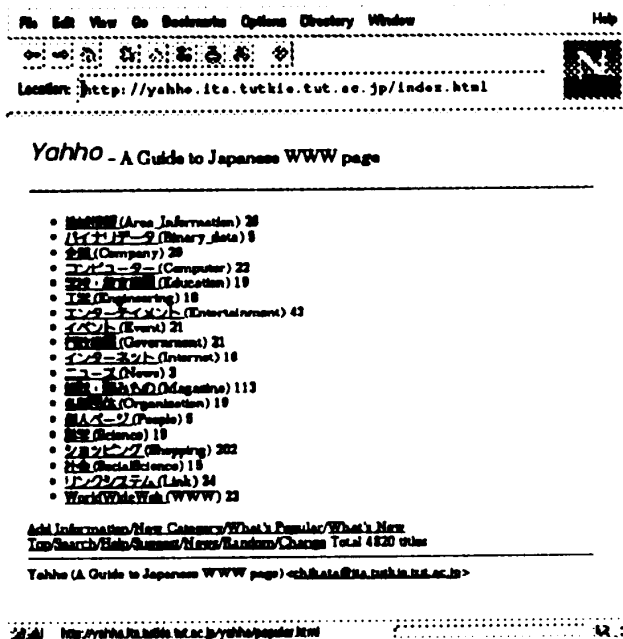


図1 Yahoo (http://yahho.ita.tutkie.tut.ac.jp/yahho/)

例えば小学校に関するページを探したいとします。まず階層の最上位には「学校・教育機関」というものがあるので、こちらをクリックします。すると、「大学」、「高校」、「中学校」、「小学校」など学校に関するものが20程度出てきます。そのなかの「小学校」をクリックすると、現在登録されている36の小学校の情報が表示されます(図2)。それぞれの学校名のところをクリッ

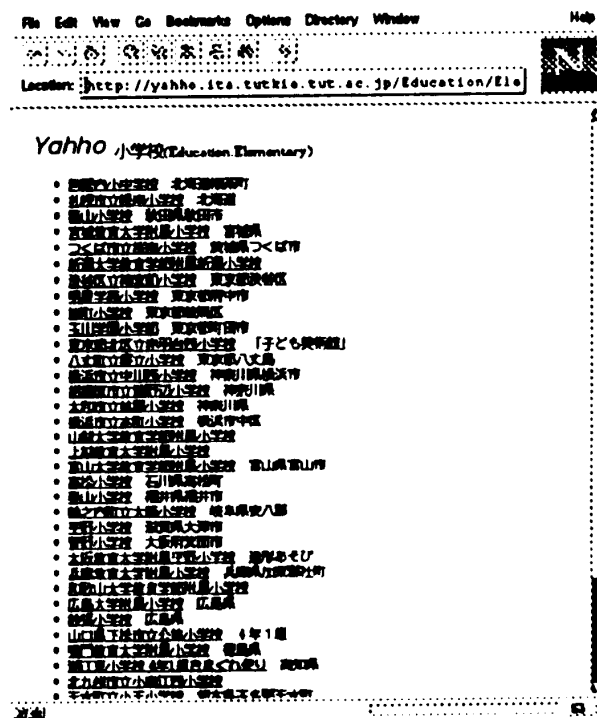


図2 Yahoo: 小学校

クすると各学校のホームページにアクセスできる仕掛けになっています。

システム自体は1週間ほどで完成し、学校関係を中心に95年夏からYahooが始まりました。最初は数十人/日程度だったのが、95年12月で3000人/日の利用があります。また登録件数も96年1月には5000件を突破する勢いです。分類も今では地域情報、エンターテイメント、ショッピングなどを中心にあらゆるジャンルが登録されており、中にはテレビ局のページに関するものもあります。

また様々な付加機能があります。一番便利なものとしては、Yahooに登録してあるものの中を検索する機能です。また最も新しい情報を得ることができる新着情報、Yahooの中で人気のある分類(最近ではエンターテイメント、特にアイドルが一番人気があります)、Yahooに対する御意見、苦情を書くコメントボード、さらにはYahooに登録してあるものの中のどこかに飛んでいくランダム機能などが用意してあります(なので、全く知らない、縁もゆかりもない人のページや、村山首相のページなどのありとあらゆるページなど新しい発見があります)。

またYahooニュースというものもあります。ここには今後作っていきたい機能であるとか、細かな変更点、分類の移動、などアナウンス的なものをニュース風にしたページも作っています。

#### 4. 今後の展望

95年夏から始まった Yahho も内部的には細かい改良を重ねています。検索機能を高速化したり、見やすくするなどしています。システム的にはかなり安定しているのですが、いまの分類をよりわかりやすくするのが今後の課題です。多くの人を使うようになってきたので一般的な分類が求められています。ある程度使って頂けると、どこになにかあるのかが分かって頂けるようですが、初めて使うひとにはどこにあるのかが分かりにくい、とも聞いています。

そのため今後は多くの人々の意見を、インターネットの電子メールを使って収集できるような、多人数参加

型の Yahho に発展させていきたいと思っています。

やはり Yahho が生まれた背景には、このような WWW にも図書館のような情報を集約する所が必要とされていたのだと思います。もし私が作らなくても、誰かが数日後に構築したと思います。本来ならばもっと大きな企業であるとかが作るべきなのかもしれませんが、単なる一個人がこのようなシステムを作ってしまう、というのは WWW の最大の特徴です。むしろ最近では企業の作るページは面白味に欠け、個人のページが非常に注目されています。

最後に興味を持たれた方は、ぜひお近くのコンピュータから、<http://yahho.ita.tutkie.tut.ac.jp/yahho/>までアクセスしてみてください。

**Series : How to net surfing ③. World Wide Web Library, Yasuhiro CHIKATA (Department of Knowledge-based Information Engineering, Toyohashi University of Technology (1-1, Hibarigaoka, Tenpaku-cho, Toyohashi city, Aichi 441))**